

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091100034		
法人名	株式会社 サニーライフ		
事業所名	グループホーム 柳河内 (Bユニット)		
所在地	〒815-0063 福岡県福岡市南区柳河内2丁目6番57号 TEL 092-562-3007		
自己評価作成日	平成28年06月22日	評価結果確定日	平成28年08月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 TEL 093-582-0294		
訪問調査日	平成28年07月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「 寛ぎの中で、ゆったり、楽しく、その人らしく 」を理念に掲げ、入居者様が自発的に生活できるような支援を心掛けています。 そのため、入居者様の生活の中で家事作業などを中心に、それぞれが役割を持っていただきます。スタッフが傍らでサポートすることで、グループホーム柳河内で「自分自身が必要とされているという気持ち」を心に強く持ってもらえるようケアプランを立案し、介護の実践に取り組んでいます。 入居者様やご家族とスタッフが長く馴染みの関係を築けるよう努めています。そのためには離職防止の取り組みとして「頑張りすぎない介護」「寄り添える介護」を実践しています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日々の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができる (参考項目:9.10.21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11.12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価	次のステップに向けて期待したい内容
		実践状況	実践状況	
I. 理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念として「くつろぎの中で、ゆったり、楽しく、その人らしく」を掲げ、日々の朝礼時に唱和している。 理念にのっとったケアが行えるよう、スタッフへの声掛けや毎月のスタッフ会議などでケアの見直しを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組への加入や回覧板の活用、シニアクラブの活動への参加などで地域住民の方々とつながる機会を持っている。 大きな行事(夏祭り、クリスマス会など)ではボランティアを依頼し、外部との交流の機会につとめている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に一度の運営推進会議に地域住民の代表者(町内会長、民生委員2名、シニアクラブ会長など)に多く参加していただき、事業所からの情報発信と地域とのかかわり方についてアドバイスをもらっている。	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見はスタッフ会議で報告とともに、その意見をもとに話し合いを行い、サービスの向上に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	人員基準等、運営上困難な事例が起きた場合は保険者に相談し、必要な指示を仰いでいる。 また、ホームが主催する認知症サポートー養成講座実施時に、担当者と情報交換を行うなどしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	福岡県身体拘束0宣言を実施している。 施設内外で身体拘束の研修を行い、スタッフ会議でフィードバックしている。 施錠については、日中は常時開放し、スタッフのみ守りで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	スピーチロックなどスタッフの言葉や動作等些細なことに留意し、不適切なケアと疑わしい段階から会議に取り上げる等、管理者、スタッフ全てが虐待が見過ごされることがないように努めている。またスタッフへの研修も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修を受け、事業所内でも勉強会を行っている。 成年後見制度を必要とされる方には、事業所のほうで働きかけを行い、活用できるように行い支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の事前面談時に契約関係について書面でご家族へ説明し、一読のうえで入居日当日に不明な点などを確認しながら重要事項の説明および入居契約を行っている。 入居後にも契約上の疑問点があれば、その都度説明する旨を伝え安心感を与えていている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、意見が記載されていた事はない。日々の関わりの中で、何でも話して頂けるよう雰囲気づくり、面会時のコミュニケーションの中で要望を聞き取れるよう努めている。 運営推進会議では関係者に要望を聞きながら、発言が難しい時には苦情情報センターへ相談できることを契約書に明示し、また進言もしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー会議、スタッフ会議を定期的に開催し、スタッフからの思いや提案を聞き取るよう努めている。 また年に2回の個別面談や随時の相談に対応し、働きやすい職場環境となるよう配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働くよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を実施し、自己評価、管理者評価を定期的に行っている。必要があれば、法人へ待遇面の向上を進言している。 離職防止のために、「がんばらない介護」を掲げ、定時退勤、有給休暇の取得推進などで65歳を過ぎても働ける労働環境に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフ募集時に、性別や年齢制限は設けていない。 ワークライフバランスに配慮した仕事が出来るよう、労働環境には配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフ会議を通じ、法人の理念を伝え、ホーム内での年間目標、月間目標をスタッフが自主的に発信するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者はスタッフの日々の業務内容を把握し、必要があればその都度指導や助言を行っている。またスタッフの能力に応じ、OJTの実施や、外部研修を受講できる機会を設けている。 自己啓発に取り組むスタッフに対しては、休みがとりやすいようにシフト作成時に配慮している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内では3事業所合同での勉強会を実施している。施設内だけの価値観にとらわれず、横のつながりで意見交換が出来る組織づくりに努めている。グループホーム協議会の会合や研修の機会を通じ、他法人での取り組みを知る機会を設けている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には管理者と計画作成担当者の2名で必ず入院先や自宅へ訪問し、インテークを実施している。初回面談時は、安心感と信頼関係を得るために傾聴を心がけ、入居者様やご家族の希望や思いを受け止めるよう配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様およびご家族に生活上の不安があればその場で丁寧に答え、ニーズがケアプランに汲み取られ、安心感を持ってもらうように努めている。 入居後しばらくはご家族とメール等で密に連絡をとり、必要があれば意見交換ができるよう努めている。 毎月写真入りでお手紙を作成し、情報共有している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	スタッフ一人ひとりが、アセスメント、フェイスシートなどの基本情報を見極め、意見交換をする中で、その方に最も必要なケアが出来るよう努力している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場における、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主が入居者様という考え方を持ち、家事の中で入居者様が出来る分野を可能な範囲で手伝って頂くようしている。食器洗い、食器拭き、掃除、烟・花の手入れ・洗濯物・ゴミ捨てをスタッフと一緒に行い、食事を共にする等で時間や生活空間を共有できるよう取り組んでいる。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場における、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービス担当者会議において、本人を支える為、ご家族、管理者、ケアマネージャー、担当スタッフが出席し現状を把握しながら今後どのように支えていくのか共に話し合い共通の意識を持ちご家族にできることはお願いしている。他科受診は家族対応だが、対応できないときは事業所で支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族が面会に来られた時、時間を有意義に過ごして頂けるよう声掛けや対応をしている。 また再度面会に来ていただけるような声掛けをし、面会に来やすい雰囲気づくりに努めている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるよな支援に努めている	気が合われる入居者様同士で関わりを多く持つてもらい、力を合わせてお手伝いをして頂く等声掛けをしている。 また多くの入居者様同士で関わりが持てるようレクリエーション等も工夫している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時、職員がお見舞いに行ったりご家族から様子を知らせていたいと状況把握に努めている。 退去後にも、その後の生活がスムーズになるよう関係機関への情報提供を行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念として「くつろぎの中で、ゆったり楽しくその人らしく」を掲げるよう、入居者様一人ひとりの思いを汲み取るように話を傾聴し、日々の生活の中でニーズを把握したりしている。 スタッフ会議等でその人らしく生活するためのケアが出来るようスタッフへ周知している。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に入居者様、ご家族、入居前の関係者に生活歴など多くの情報を聞き取り、アセスメント表を作成し、スタッフに回覧することで情報の共有に努めている。 入居後にも会話等を通じ、歩んできた道のりを把握しケアに活かせるように取り組んでいる。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフが情報を把握し、申し送り等でそれを共有している。 また必要に応じアセスメントを行い、個別にカンファレンスを実施している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン立案時には、ご本人およびご家族の意向を聞き取っている。 ケアカンファレンス時には担当スタッフを中心に意見を出し合い、その方にあったケアプランを立案し、見直しも隨時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	水分量や食事量、排泄内容、健康チェックなどを日々記録している。 また、入居者様の言葉や気づきを記録し申し送ることでスタッフ間での情報共有とチームケアに努めている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様およびご家族の希望があれば、可能な限り外出や外泊の支援をしている。 外出レクリエーションや歯科往診、訪問マッサージなど個別のニーズに合わせたサービス利用の支援を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアセンターを活用し、レクリエーション等に参加することで、地域住民との交流や活性化を図っている。 地域で季節感のある行事(節分、夏祭り、敬老会、クリスマス会等)があれば可能な限り参加し心身の維持向上に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は入居時に入居者様およびご家族の意向で決定している。入居者様の既往歴、病状、身体機能などを把握した上で協力医療機関との連携を駆使し、訪問診療を行っている。体調不良があった場合はその都度連携し、治療や処方の変更につなげている。ご家族の意見・要望があれば、スタッフが代弁し、医療機関に報告・連絡・相談を行っている。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフが毎日の健康チェックや排泄状況、食事摂取量の記録を行い、入居者様の身体状況や精神状態に変化はないか確認している。 異常があれば看護師に連絡し指示を仰ぐと共に、必要があれば医療機関への受診につなげている。看護師は夜間帯など緊急連絡先にもなっている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよう、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が医療機関に入院する場合には、施設での状況などを入院先に情報提供し、スムーズな治療が行えるように努めている。 また、必要があればご家族に代わり、入院時の準備(衣類、内服薬、身の回りの品)をし、届けている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化時の対応やターミナルケアの事についてグループホームでの方針や出来ることを説明し、入居者様、ご家族の希望を聞きながら、同意を得ている。 また重度化や終末期に向けた対応が出来るよう研修等で研鑽に励んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けています	緊急時の事故発生時のマニュアルを作成している。スタッフには定期的に緊急時の対応訓練を実施している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火管理者を中心に定期的に避難訓練を実施している。また非常食や飲料水、緊急持ち出し物を準備している。 地震、水害時の地域との協力体制については、運営推進会議等で議題にあげ、組織づくりを進めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるため日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を敬い、思いやりを持って羞恥心に配慮した節度ある対応が出来るようスタッフに接遇教育・指導を行っている。 守秘義務についても入職時に説明し、徹底するよう指導している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で、入居者様が発した言葉の端々からその方の思いや希望を汲み取り、日常のケアに活かせるよう支援している。 生活面で選択が可能なような声掛けも実施している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課は最低限のものに留め、その日にすることは入居者様が自発的に主張できるよう声掛けをしている。 また、画一的なケアにならないようスタッフ同士で声掛けし、留意している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時と就寝前に更衣を行っている。 着替えについては入居者様にその日着たい洋服を選ばれるよう声掛けしている。 化粧が出来る方には積極的に化粧を促し、身だしなみやおしゃれが継続できるように努めている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や片付けなど可能な範囲で入居者様に手伝いをお願いしている。余裕があれば、週に1回程度は買い物への同行も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した献立をもとに、手作りで調理し適時適温で食事を提供している。 毎食、食事量を記録し、入居者様の嗜好や病状による食事制限、毎月の体重測定を参考にし、食事形態、食事量、水分量の見直しを行っている。 また自力摂取に繋がるよう、自助具にも配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前には嚥下体操を実施し、口腔機能の維持に努めている。また食後には、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。 義歯がある入居者様には、就寝前に預かり義歯洗浄を実施している。 歯科医による週1回の定期的な往診で、口腔機能の維持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンを把握している。 また、入居者様一人ひとりの排泄機能にあったケアを実施している。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談したり、スタッフ間で話し合いを行い、食物繊維を多くとれる食事を提供している。 腸の蠕動運動を刺激するためのマッサージや運動を働きかけ、自然排便へ取り組んでいる。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴を実施している。 入居者様のニーズに合った入浴が出来るよう、入浴日や入浴時間、入浴方法など柔軟な対応を心掛け、気持ちのよい入浴が出来るよう支援している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は入居者様の主体的な希望を尊重し、声掛けや見守りを行っている。（夜の仕事をしていた方は夜遅くに就寝など） 入居者様一人ひとりの生活習慣や、その場その時の状況に応じて、夜間帯での安眠できる環境整備や日中でもベッドでの休養の時間を設けている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方時には、医師や薬剤師から内服薬の説明を受け、必要があれば申し送りノートで伝達している。 また個々の内服内容をファイリングし、スタッフ全員が目を通すことで、内服薬の把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理の仕事を長年された方には料理の手伝いや盛り付け、他の人には食器洗い、コーヒーの準備等をして頂いている。 レクリエーションも個別に行うことで、個々が得意な物(絵画など)に取り組めるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出来られるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	2階であるが故に気軽に屋外に出にくいために、可能な限りレクリエーションで季節ごとの行事(花見など)を行い、また希望に応じて外食(寿司など)を行う等、楽しみが見いだせるような支援を行っている。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持については、トラブル防止の為原則は預り金として施設が管理している。 金銭管理の出来る方は、少額ではあるが自己管理を勧めている。 入居者様と一緒に買い物に行き、好きなものを買われ、支払いが出来るよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持っておられる方は、通話が可能か、充電が出来ているかなどの確認を行っている。 希望があれば、固定電話の活用や年賀状でのはがきでのコミュニケーションが出来るよう取り組んでいる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、フロア、居間には生け花を飾り、壁面には季節ごとの飾り付けをしている。 取柄には香りのよいハーブの植物を置き、招集に努めている。 空調が直接入居者様の肌に当たらないよう、風壁をつくるなどで工夫している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにはソファを置き、テレビを観たり、頭の体操(パズル、写経、計算など)や塗り絵など、入居者様が好きなものを好きな時に使えるよう、また思い思いに過ごせるよう支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様に馴染みがあるタンスやテーブル、テレビ、仏壇などを持ち込んで頂き、家に居た時と同じように感じられるよう居室空間を整えている。 またご家族の写真や手紙を掲示し、面会時もゆっくりとくつろげるようスタッフの声掛けに配慮している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリー化されており、居室、トイレ、廊下、浴室などに手すりを設置し転倒に留意している。 また手すりを使用しての立位訓練なども積極的に取り入れている。		